

予告

8月後半 90分勉強会を検討中です。事例集をお目通し・ご持参のうえ、ご参加下さい。本日、お目通しの方は、何人？

大阪労山夏山連絡会 20210715 事故事例集第2集の紹介

労山大阪府連の事故 約 500 件を分析してみました

編さん委員長 中川和道 climber-nak@bca.bai.ne.jp

Q&A 「登山時報」2021年7月号から他： 中川が聞いたうわさ話：

- (1) あんたたちクライミングは危ない。一方、私たちハイキングは安全や → 本当？
- (2) 事故件数、あんたらクライミングは断然多いだろうし、 → 本当？
- (3) あんたらは骨折だらげやんね。ハイキングはせいぜいネンザやで → 本当？
- (4) クライミング系は労山基金の大部分を持っていくんですよね → 本当？
- (5) 血液型 A 型の仲間の事故が最も多い → 本当？
- (6) 事故の最大件数は「道迷い」である → 本当？

データで確かめてみた

1. 1994年3月「大阪労山における事故の記録」大阪府勤労者山岳連盟

(委員長 安田一郎) 1969-1993年の事故163件のリスト化

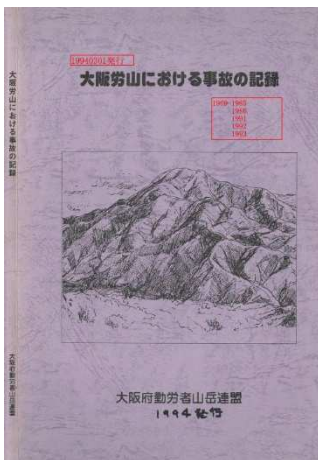
第1集

2. 1998-2001年の事故のリスト 92件

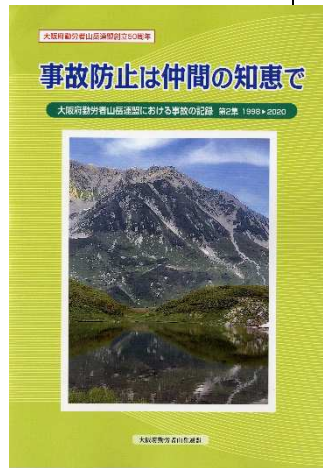
3. 2002-2014年の事故分析 295件 河野仁 川上洋子 笠井ふみ子

第2集
今回
580件

4. 2010-2020年の事故分析 195件 中川和道



第1集 1994



第2集 2021

用いたデータ

(a)大阪労山ニュースの**事故一覧**(←労山基金 事故一報申告の「事故の概要」)
から、**統計分析**を行った 500 件

(1)事故の場所

(2) 態様 1、態様 2 の分析を発展させる

→「仲間の記録・申告はすばらしく正確である」ことが分かった

・ハイキング系：転倒 沢：滑落 雪：滑落 クライミング系：墜落が 1 位

(b)**事故対策会議**の記録 2010-2020 80 件

から、**個別事例研究**を

・事故対策会議の記録の留意点 次の教育遭対部長よろしく願ひいたします。

(1)**複数の見方を並列記述。ひとつのみの結論にしないで将来に複数論点を残す**

(2)具体的には、事故者の行動理由を切り捨てない。事故受難の先生とみなし、
「明日は我が身」との立場をとる

現時点では

第 2 集 訂正版 作業中 ・個人情報さらに保護 ・表の位置を直す

第 2 集 改訂第 2 版 次の人? ・死亡事故分析の章 ・クライミングの事故分析の章

第 3 集 新しいデータなど 10 年後?

第 2 集訂正版までで分かったこと

(1)登山道での事故が多い、

(2)下山中の事故が多い、

(3)登山道下山中の事故は墜落や転落よりも その場での転倒が多い、

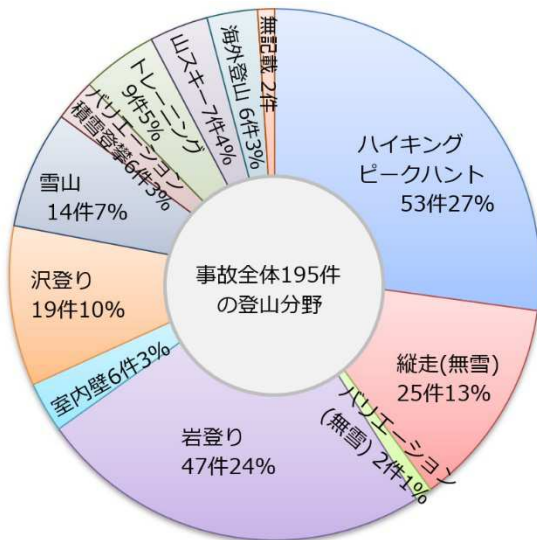
(4)にもかかわらず骨折にまで至っている、

(5)登山道下山中の事故は 14 時頃集中的に起きており、これが全体の事故統計でも
「魔の時刻は 14 時」に対応している可能性がある。

(6)道迷いの事故は 2%しかない。連盟「山の教室」の読図チームの活躍や各会での
読図公開ハイクなどの取組の成果だと思われる。

第2集訂正版までで分かったこと

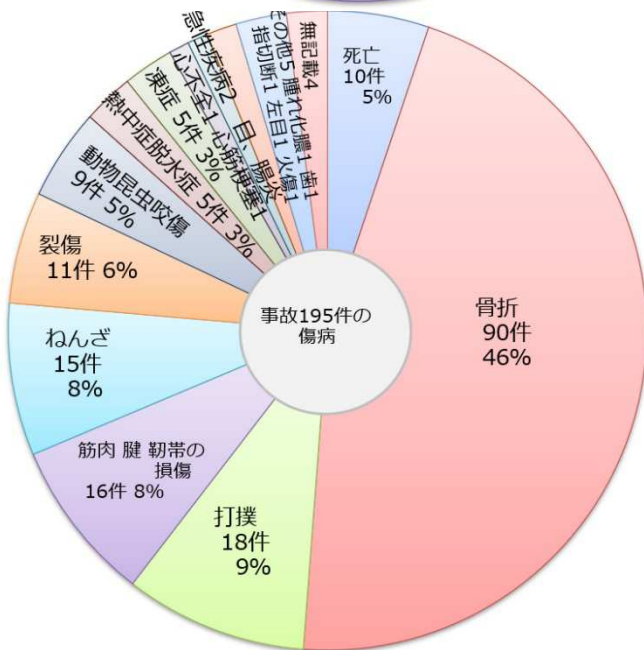
1. 仲間たちはどんな山行
目的で、事故に遭っ
ているか？



ハイキング系 =
53+25+2=80件
クライミング系=
47+6 =53件

2. どんな傷病に
至ったか？

骨折が多い！



クライミング系
ばかりでない
全分野で骨折に
やられている！

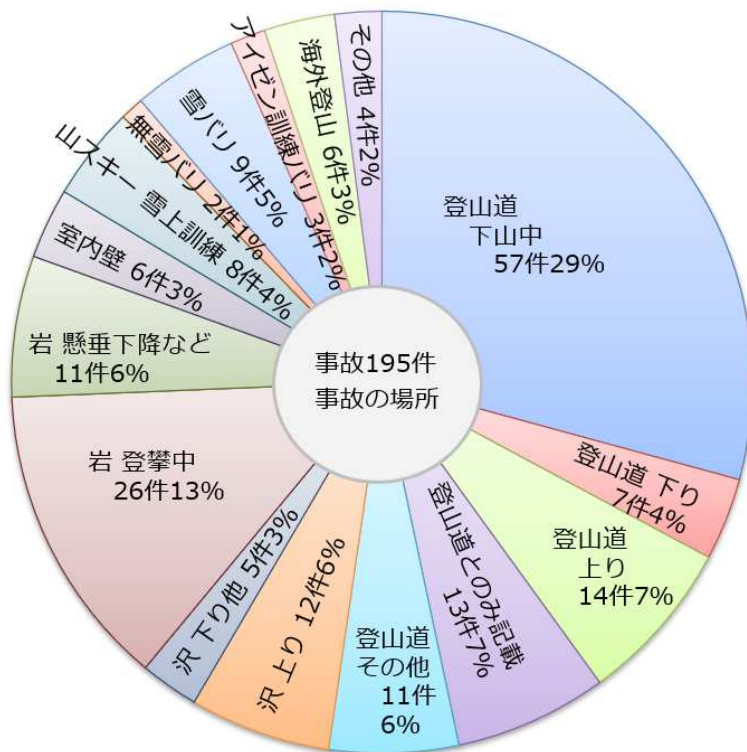
3. 仲間たちはどんな場所で事故に遭っているか？

河野仁・川上洋子・笠井ふみ子 グループの成果 2016

事故というと 厳しい嵐の岩壁 吹雪の稜線 を連想するが、

実は **登山道での事故が多い 53%**

→今回は 登山道をさらに分けてみた 下山中 下り 上り



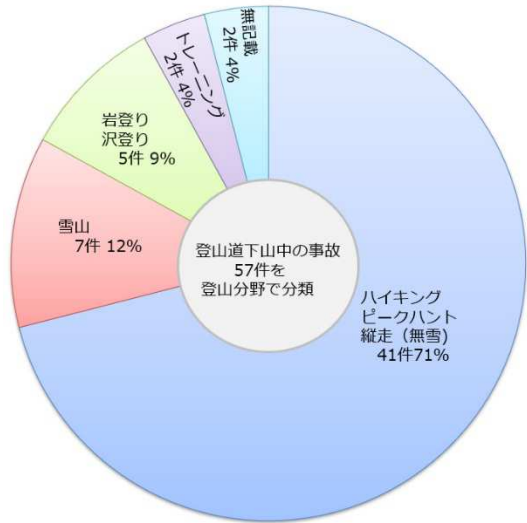
登山道 **下山中の事故が多い**

4. 登山道下山中の事故とは？深掘り分析し、→解決策の手がかりを探したい

4-1. どの分野の仲間も下山

するから、下山中の事故は全分野に及んでいるはず。

- ・岩登り沢登りは少ない。
- ・ハイキング系が主にやられている。



4-2. 登山道下山中の事故 57

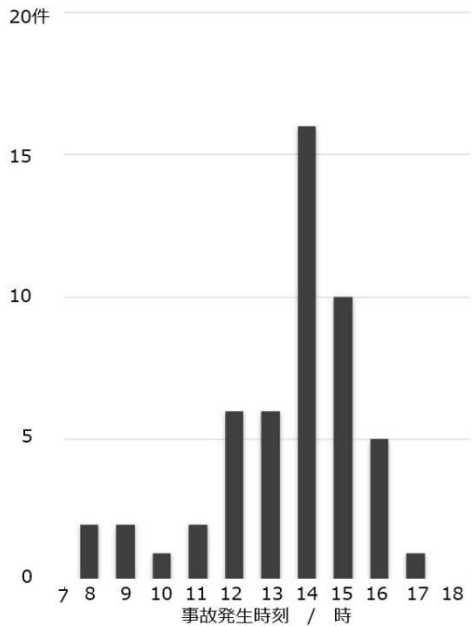
件が起きた時刻は？

14時：定義は13:30-14:30

A先生・中川

- ・足の疲れの極大は15時16時のはず
- ・その前になぜやられるのでしょうか？
- ・仮説：
疲れを自覚できる前の時刻仮説
- ・仮説は正しいか？
- ・正しいなら対策は可能か？
- ・気づけばよいのか？

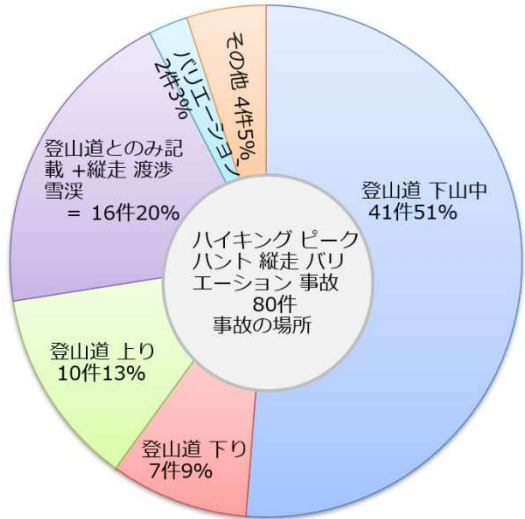
中川 大阪で実験グループを？



5. ハイキング系の仲間の事故 80 件の分析から、今回、何が分かったか？

5-1. どこで事故に遭ったか？

- ・登山道が 93%
 - 下山中 41 件+
 - 下り 7 件+上り 10 件+
 - 登山道その他 16 件
 = 74 件 93%
- ・当たり前
- ・ハイキング系の仲間の行動は登山道である
- ・しかし下山中の事故が多いことは明白



5-2. 傷病は重篤

- ・骨折が 51%
- ねんざは 8% !

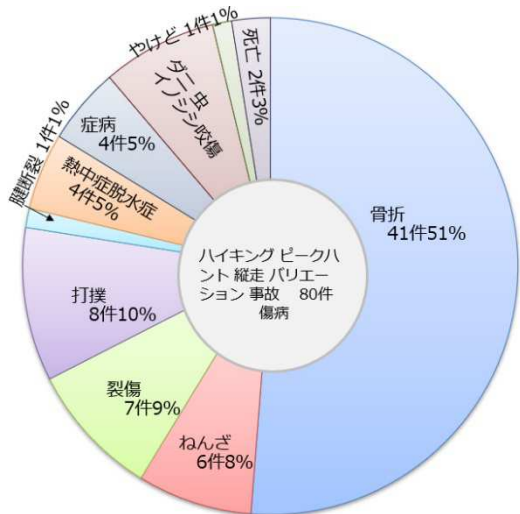
いったい、どういう過程で
やられているのか？



明らかにしたい



解決策を探りたい

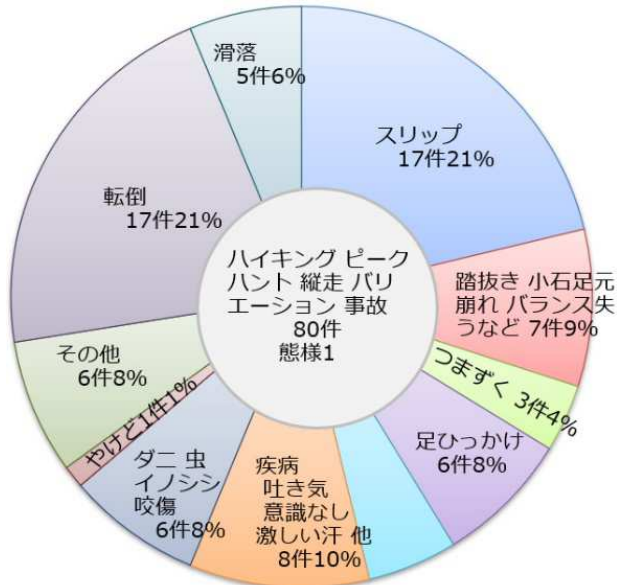


仲間たちは何をきっかけに事故に至ったのか？

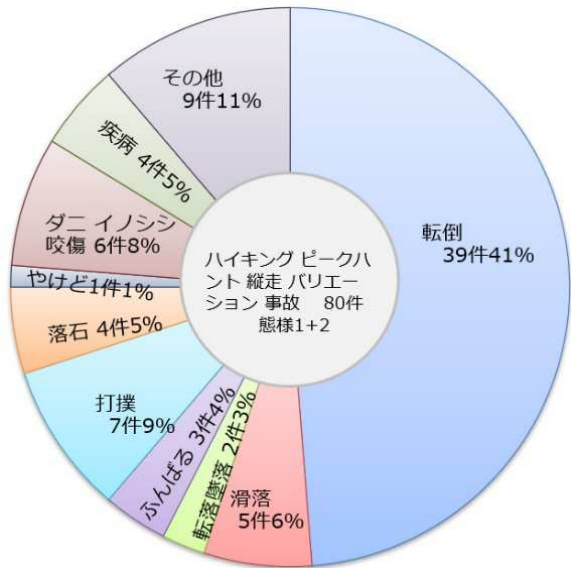
態様 1→態様 2→態様 3

5-2.仲間たちは何をき
っかけに事故に至った
のか？

愛知労山の成果を活用
態様 1→態様 2→
態様 3



- ・登山道下山中の事故は
墜落や転落よりも その
場での転倒が多い、
- ・にもかかわらず骨折に
まで至っている、
- ・ここを解決していきたい
が、実態を調べたい。協
力して下さるボランティ
アなど可能だろうか？



6. 道迷いの事故は2%しかない。連盟「山の教室」の読図チームの活躍や各会での読図公開ハイクなどの取組の成果だと思われる。

次の人に期待 第2集第2版はあなたの手で！

7. クライミング系の事故分析

8. 死亡事故の分析

その他にも……。第2集は訂正版にすぎません。まだ改訂されていません。

9. ハイキング系の仲間はどのように転倒しているか？の調査、解決策、解決体操の考案のチーム。誰か、いませんか？

あとは、次回に……。